

渡邊重春 わたなべ じゅうはる 國學者。天保二年二月十日豊前國生れ、明治二十二年五月九日歿（八三一九〇）。號作樂園、櫻園、欽英書屋。初の定村直孝の國學を學び、出郷して佐久良兼雄 あつま かねお、足代弘訓 あじろ ひろのり、御巫清直等 みまの しみちら に就學。嘉永四年眼病を歸郷後、平田篤胤の歿後門人となる。明治一年中津藩皇學教師範方、四年教授、更し大助教に任じた。のち神宮を歴任。渡邊重石 わたなべ じゅういし の兄。

著書 ちやう 八史提要 はちし たいよう 全二冊（明治六年十一月、千代官許、京都・作樂園藏版）、ちやう 日本史學新説 にっぽんしがく しんせつ（合著・廣池千九郎監修、明治二十五年十月）、ちやう 日本史學普及雜誌社（等）。